



規約改正案、中国くるぶなど年間活動承認

2017年度岐阜日中友好協会定期総会



2017年度総会に出席した
 会員＝岐阜市橋本町、村上
 記念病院
 大友克之副会長

日中友好協会の2017年度定期総会は5月20日、岐阜市の村上記念病院ホールで開かれ、前年度の事業報告と収支決算、本年度の事業計画案と収支予算案、規約改正案、役員等の異動は原案通り承認された。

前年度事業は、歴史学者の阿南・ヴァージニア・史代さんらを講師に招いた3回の講演会、二胡演奏会の中国くるぶ、日中交流会議（中国長沙市）への参加などで、それらに伴う収支予算を適正とする監査報告が行われた。

本年度事業は、日中国交正常化45周年、日中不再戦碑文交換55周年の節目に際し、「不戦と友好」の原点に立って民間交流のさらなる推進、関係団体やグループとの交流、連携を充実させるとしたうえで、公開例会「中国くるぶ」の開催（4回）、杭州国際マラソン（旧西湖マラソン）への役員派遣などを計画。それらに伴う収支予算が示された。

承認にあたり、杉山幹夫会長から「きふ春節祭」（今年1月）について、実行委員会での当協会の活動を評価する一方、協会の現状と照らして取り組みよう指摘があった。

今回の規約改正は、当協会の出発点「日中不再戦」を明記し、地域組織にふさわしい平易な文への手直しと重複等の条項整理が主な目的である。主な改正点は会長と理事長の業務分担、入退会の規定をそれぞれ明確にし、入会金を廃止した。



役員等の異動は、大友克之理事（朝日大学学長）が新たに副会長になり、その後任理事に森下伊三男氏（同副学長）が就いた。中国の大学に就職する鈴木高啓理事・事務局長が退任。田中孝典理事の新事務局長就任がそれぞれ承認された。

大友副会長の抱負 副会長職を拝命しました朝日大学学長の「大友克之」と申します。1971年の建学以来、本学が培ってきた中国との交流実績を本協会に還元すべく、粉骨砕身つとめて参ります。会員の皆様にはご支援ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



中国での体験を交え日中交流への参加を呼び掛ける星屋秀幸さん＝岐阜市橋本町、村上記念病院

**中国の近代化に尽くした38年、日中民間交流の大切さ説く
 森ビル特別顧問の星屋氏**

公開例会「中国くるぶパート1」が定期総会のあと開かれ、下呂市出身の森ビル特別顧問星屋秀幸さんが「中国との絆くわが人生との旅」と題し、大手商社マンとして1980年代から中国の近代化に尽力した半生を語り、民間交流の大切さを訴えた。

星屋さんは1950年生まれ。74年に名古屋大学工学部を卒業後、三井物産に入社。北京語言学院に留学、天津事務所駐在などを経て95年から8年間、上海三井物産社長を務めた。この間、上海日本商工クラブ会長に就任、中日民間交流に貢献したとして上海市政府から外国人に贈られる最高の「白玉蘭栄誉獎」を受賞、寧波市から栄誉市民に選ばれた。同社を退社後、森ビルに転職。上海環球金融中心有限公司総経理、上海森ビル総経理を経て現在に至る。講演要旨は別紙へ。



【星屋氏の講演要旨】

大学在学中、アルバイト先でアジア人と触れる機会が多く、将来はアジアと関わる仕事に就きたいと思うようになった。日中国交正常化（1972年）を機に中国に絞り、三井物産に入社した。

しかし最初の仕事はゼネコンへの鋼材売り込みだった。やがて製造元の新日本製鐵が上海に宝山製鉄所を造り計画を知り、社の留学制度に手を挙げた。北京語言学院に入学し1年間、中国語を学びながら各地を旅して見聞を広めた。

一番驚いたのは、日本と中国の大きな経済格差であった。留学中、北京の人民大会堂で聞いた「中国の経済建設を日本は全力で応援する」との小平正芳首相の講演に鳥肌が立った。その一翼を担うべく背中を押された気になった。

中国での第一歩は三井物産天津事務所駐在。渤海湾の日中石油開発などに参画した。その後、タクラマカン砂漠のタリム油田など陸上油田向け石油鋼管の輸出、上海宝山製鉄所との提携、人材交流などを手掛けた。

95年から上海浦東地区にオフィスを移し、8年間、上海三井物産社長として陣頭指揮に当たった。8年連続の増収増益を実現し、上海日本商工クラブ会長を務め、上海白玉蘭獎を99年と2003年に2度受賞、寧波宋言市民にも選ばれた。

東京に戻って日中貿易会社の社長を経て森ビルに転職した。仕事の舞台は再び上海になった。14年から2年間、上海森ビル總經理、上海環球金融中心有限公司總經理を務めた。



日中交流には無限の可能性がある。15年秋、上海森ビルの日本への社員旅行を物見遊山から研修旅行に切り替えた。中国人社員120人が参加し、まずはモノづくりの聖地トヨタ産業技術記念館、楊貴妃伝説がある熟田神宮を見学した。

3班に分かれて下呂市、高山市、飛騨市で市民交流に臨みふれあい、温泉や伝統文化、自然を満喫した。感動をその都度SNSで発信、飛騨の知名度は上海でもアップした。宿泊した下呂温泉の旅館でマナーの良さを褒められたのがうれしかったという。

岐阜は日中交流の先進地。自信をもって若い人にはどんどん挑戦してほしい。

中国くるぶ 今後の予定

◇パート2・日中民間交流写真展

日時 10月16日(月)～20日(金)

会場 ぎふメディアアコスモス(岐阜市司町)

※日中国交正常化45周年を記念して中部6県の日中友好協会が民間交流の歩みを記録した秘蔵写真を巡回展示する。

主催 中国駐名古屋総領事館、愛知、岐阜、三重、福井、石川、富山各県日中友好協会

◇パート3・特別講演会

講師 小坂文乃さん(日比谷松本樓代表取締役社長)

日時 10月28日(土) 午後1時30分から

会場 朝日大学講義室(瑞穂市穂積1851)

※中国の革命家孫文と辛亥革命を支えた日本人梅屋庄吉のひ孫小坂さんが孫文と梅屋の交流を通して日中友好とは何かを語る。

協賛 朝日大学、岐阜県国際交流センター

◇パート4・新春のつどい講演会

講師 西村今日子さん(森松工業取締役海外事業部長)

日時 2018年2月4日午前10時30分から

会場 グランヴェール岐山(岐阜市柳ヶ瀬通6の4)

※森松工業の中国進出を一人で切り開き、海外事業の全体統括者として世界を駆け回る西村さんがその体験を語る。